

# RS ウイルス感染症予防接種（母子免疫ワクチン）説明書

RS ウイルス感染症予防接種（母子免疫ワクチン）を受ける方は、必ずこの説明書をよく読んでください。

## RS ウイルス感染症とは

RS ウイルスは特に小児や高齢者に呼吸器症状を引き起こすウイルスで、1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも1度は感染するとされています。感染すると2～8日の潜伏期間ののち、発熱・鼻汁・咳などの症状が数日続き、一部では気管支炎や肺炎などの下気道症状が出現します。初めて感染した乳幼児の約7割は軽症で数日のうちに軽快しますが、約3割では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸がしにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状が出るなど重症化することがあります。

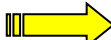
RS ウイルスは接触・飛沫感染により伝播するため、手洗いや手指衛生といった基本的な感染対策が有効です。治療は症状に応じた治療（対症療法）が中心で、重症化した場合には酸素投与・点滴・呼吸管理などを行います。

## 母子免疫ワクチンについて

生まれたばかりの乳児は免疫の機能が未熟であり、自力で十分な量の抗体をつくることができません。母子免疫ワクチンとは、妊婦が接種すると母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができるワクチンです。

### <接種対象者・接種方法等>

対象者	接種時点で妊娠28週0日から36週6日までの妊婦 ※過去の妊娠時に組換えRSウイルスワクチン（母子免疫ワクチン）を接種したことがある方も対象となります。 ※接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していないことから、妊娠38週6日までに出産を予定している場合は医師にご相談ください。
接種回数	妊娠ごとに1回
接種方法	筋肉内に接種
使用するワクチン	組換えRSウイルスワクチン（商品名：アブリスボ®）
接種できない方	・明らかな発熱を呈している方 ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな方 ・ワクチンの成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな方
接種に注意が必要な方	・妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や今までに妊娠高血圧症候群と診断された方 ・血小板減少症や凝固障害を有する方、抗凝固療法を実施されている方 ・心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患等の基礎疾患を有する方 ・予防接種を受けて2日以内に発熱や全身の発疹などのアレルギー症状があった方 ・けいれんを起こしたことがある方 ・免疫不全と診断されている方や近親者に先天性免疫不全症の方がいる方 ・ワクチンの成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある方

裏面もご覧ください 

## <ワクチンの効果>

		生後 90 日時点	生後 180 日時点
母子免疫 ワクチンの 効果	RS ウイルス感染による 医療受診を必要とした 下気道感染症の予防	6 割程度の予防効果	5 割程度の予防効果
	RS ウイルス感染による 医療受診を必要とした 重症下気道感染症（※）の予防	8 割程度の予防効果	7 割程度の予防効果

※医療機関への受診を要する RS ウイルス関連気道感染症を有する RS ウイルス検査陽性の乳児で、多呼吸・SpO<sub>2</sub>：93%未満・高流量鼻カニューラまたは人工呼吸器の装着・4 時間を超える ICU への収容・無反応・意識不明のいずれかに該当と定義しています。

## <ワクチンの安全性>

接種後に以下のような副反応がみられることがあります。

### ○重大な副反応

頻度は不明ですが、ショック・アナフィラキシーがみられることがあります。

### ○その他の副反応

副反応の発現割合	主な副反応
10%以上	接種した部位の疼痛（40.6%）、頭痛（31.0%）、筋肉痛（26.5%）
10%未満	接種した部位の紅斑・腫脹
頻度不明	発疹、蕁麻疹

（添付文書により厚生労働省にて作成）

※ワクチン接種による妊娠高血圧症候群の発症リスクに関して、薬事承認において用いられた臨床試験では妊娠高血圧の発症リスクは増加しませんでした。海外における一部の報告では、妊娠高血圧症候群の発症リスクが増加したという報告はあるものの、交絡因子等の影響の可能性のあることから解釈に注意が必要であるとされています。

※接種後に気になる症状を認めた場合は、接種した医療機関へご相談ください。

## <他のワクチンとの同時接種・接種間隔>

医師が特に必要と認めた場合は他のワクチンと同時接種が可能です。

ただし、海外の知見で、百日咳菌の防御抗原を含むワクチンとの同時接種で百日咳菌の防御抗原に対応する免疫応答が低下するとの報告があり、接種間隔等については医師と相談してください。

## 予防接種を受けた後の注意事項

- ・ワクチン接種後 30 分程度は安静にしてください。また、体調に異常を感じた場合には、速やかに医療機関へ連絡してください。
- ・注射した部位は清潔に保つようにしてください。接種当日の入浴は差し支えありません。
- ・当日の激しい運動は控えるようにしてください。

## 予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、副反応による健康被害（病気になったり、障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、予防接種健康被害救済制度が設けられています。救済制度は接種を受けたご本人及び出生した児が対象となります。

給付申請の必要が生じた場合には、大野町保健センターへご相談ください。

### 【問い合わせ先】

大野町保健センター （☎）0585-34-2333